# 中国がわかるシリーズ 37
# 紙幣の誕生

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口　治明氏

1160 年、宋では四川で、交子(紙幣)が発行されましたが、まだ約束手形の性格を残していました。交子が発行された背景には、慢性的な銅銭不足（銭荒現象）がありました。宋は、歴代王朝の中で、最も多くの銅銭を発行しましたが、それでも、経済規模の拡大には追いつけなかったのです。そこで、唐の末期頃から、中国では、短陌と呼ばれる商慣習が定着しました。これは、例えば、77 枚の銅銭を紐で結わえて一束にすれば、銅銭 100 枚として通用するというもので、実質的には、通貨の切り上げであり、かつ大商人に有利な制度でした（77 枚をバラバラにすれば、100 枚の価値はなくなります。従って、多くの銅銭を所有する大商人しか、短陌のメリットには与れないということになるのです）。

銭荒現象が強まる中で、四川では、粗悪な鉄銭が流通していましたが、そのような状況の中で、地元の富豪組合が、交子を誕生させたのです（なお、短陌は、東アジアに広く伝えられ、わが国でも省陌と呼ばれる商慣習として定着しました。わが国では、97 枚もしくは 96 枚が、100 枚に相当したのです）。

1162 年、高宗は譲位して、名君、2 代、孝宗（～1189）が即位しました（なお、高宗は 1187 年まで長生きしました）。金でも暴虐な海陵王（1149～61)を倒した 5 代、世宗(1161～89)が即位していました。両者は、1165 年、改めて和議を結び、両国の関係を、臣君関係から、甥（宋）叔父（金）の関係に改善して、歳貢を 2 割減額しました。この後、約 40 年に渡って平和が訪れ、両国は、最盛期を迎えたのです。南の国境が安定した金は、1170 年頃から、北辺に界壕（長城）を築き始めました。金の界壕は、長さでは 2500kmと、ほぼ万里の長城に匹敵します。一方で北の脅威が薄らいだ南宋の首都、杭州は、嘗ての開封のような賑わいを呈していました。清盛が日宋貿易に乗り出したのは、この孝宗の繁栄の時代だったのです。

日本では、平氏の勃興に危機感を募らせた守旧派の後白河上皇が、源氏に挙兵を促し、やが

Copyright　ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
発行人：岡本和久、発行：I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社
URL: http://www.i-owa.com；E-mail: info@i-owa.com

て平氏を滅ぼした源氏の統領、源頼朝が、1185 年に、全国に守護・地頭を配して鎌倉幕府を開きました。清盛に次ぐ武家政権の誕生です。愚昧な政権ではありましたが、後白河上皇は（せめて離れていることで）満足するしかありませんでした。後白河上皇は、「梁塵秘抄」（今様歌謡集）の作者としても知られ、平清盛と並ぶ傑出した政治家だったと思います。源氏は 3 代約 30 年で滅び(1219)、執権、北条氏（平氏の一族）が、鎌倉幕府の実権を掌握しました。そして皇位決定権は、上皇から北条氏の手に帰したのです。



Copyright ⓒI-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社